川口町公民館報

公民館報

第100号

発行人 古田島 正
印刷所 山勝堂印刷所

町の人口（4月末）

世帯数		1.518
人口	男	3.585
	女	3.673
	計	7.258

町の台所から（その2）

ことしの町の予算
重点は産業振興と住民福祉に

一般会計 二億八千万円
特別会計 一億一千万円

昭和四十四年度の一般会計並びに特別会計の当初予算は、去る三月二十日原案通り可決しました。一般会計二億八千百八十三万円、特別会計一億一千七百三十六万八千円、総額三億九千九百十九万八千円で、昨年にくらべると一億三百六万円（三十四、八%）の増加になります。

特に一般会計は九千八百八十二万二千円（五十四%）の増加となっています。一般会計について、みますと、才入は地方交付税一億一千五百九十九万円のほか国県支出金、町債（長期借入金）等の依存財源を限度いっぱいにみこまれています。町税の伸長率が鈍化しているため、自主財源の予算に占める割合は十七、六%となっています。才出は目的別にみると、農林水産業費が全体の二八、八%で最も多く、性質別にみると建設事業が全体の四十三、九%で最も多くなっています。主な事業をひろってみますと次のとおりです。

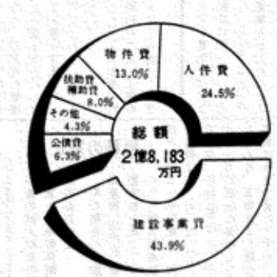
◎総合福祉センター建設事業 二億四千七百三十四万円。ことしと来年の二ヶ年継続で、ことしは二千三百二十五万二千円。
◎町営住宅建設事業 二十戸建設二千七百二十八万八千円。
◎生活改善センター建設事業 一千八十七万二千円。
◎仙之沢林道開設事業 一千四百六十二万七千円。
◎農業構造改善事業 二千百二十一百八千円。
◎町道新設改良事業 一千五百三十七万九千円。
◎農道整備事業 一千百九十八万五千円。
◎県立農業試験場誘致費 四百六十五万円。
◎国土調査事業 五百八十四万八千円。

なお、一般会計並びに特別会計の状況を表とグラフで示しましたから参照して下さい。

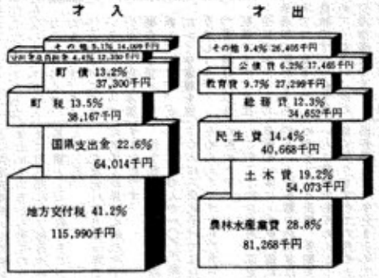
昭和44年度 川口町予算総括表

会計別		本年度予算額 金額(A)	構成比	前年度予算額 金額(B)	構成比	比較 (A)−(B)	(A)/(B)	備考
		千円	%	千円	%	千円	%	
一般会計		281,830	70.6	183.008	61.8	98.822	154.0	
特別会計	国民健康保険事業会計	79,001	19.8	77.295	26.1	1.706	102.2	支出予算で計上
	農業共済事業会計	10.502	2.6	9.453	3.2	1.049	111.1	
	ガス事業会計	19 951	5.0	19.672	6.6	279	101.4	
	簡易水道事業会計	7.914	2.0	6.710	2.3	1.204	117.9	
	計	117.368	29.4	113.130	38.2	4.238	103.7	
合計		359.198	100.0	296.138	100.0	103.060	134.8	

一般会計性質別の才出構成



一般会計2億8.183万円の構成



議会だより

常任委員改選される

町議会では、五月十五日の臨時議会で議長、副議長および副委員長および委員改選による改選を行なった。

議長および副議長は、地方自治法の規定による選挙の結果、山田寅之助氏（七八才・元）が当選した。

山田寅之助氏は敗戦前一回、戦後四回連続当選し、昭和三十年から三十六年にかけて議長を二期つとめ、議会の長老である。星野武夫氏は、六回連続当選の古参議員で、昭和三十八年から副議長一期をつとめた。

常任委員会も委員構成を一新し、委員長および副委員長の選任は、地方自治法による選挙を兼用して、それぞれ次のとおり選任した。

○印 委員長 ◎印 副委員長

議長 山田寅之助

副議長 星野武夫

成人式をむかえて

四月二十九日町長さんをはじめ来賓の皆様から温かい激励のお祝を頂いて盛大な成人式を挙行していただきました。

いままでの二十年間私は同級や周囲の温かい保護のもとで何不自由なく、失敗やわがままもある程度許され甘えて来ました。いわば温室の花のような存在でした。

しかし、これからは一人の社会人として、自分の行動に責任を持たなくてはなりません。

私はいつも考えます。自立たなくてもよい、誰れからも頼いっぱいの努力をしていきたいと思います。

西川口 関ミチ

皆様のご指導とお力添えをたよりに、これからの生活に好ましい協調性のある心豊かな誠実な大人になりたい……と大人の仲間入りができたということに大きな喜びを感じますがやはり不安もありますが皆様のせまかったままでを反省し、もっと社会の責務に目をむけて豊かな人柄を身につけたいと思います。

これからの人生が決して容易なものでないことは覚悟しております。

暗雲も吹く毎日かつまづくこともあるでしょう。転んだらまた起きて進みます。

大久保栄作

渡辺備一

総務委員会

○上村 正雄

○江島 勝

星野喜勇平
星野 武夫
古田島八
小見 昇司
岡 平吉

産業土木委員会

○小宮山賢吉

○堀沢 哲男
堀沢 正雄
綱 与市
大須賀竹太郎
星野 光政
島島 二郎

社会文教委員会

○上村 忠作

○斎藤村友蔵
広井 松雄
笹崎 寅市
関 進次
綱 直太郎
星田喜治

委員会の町内巡視

このたび委員会では、町内の公共施設や町道などを巡回して視察を実施した。

社会文教委員会が五月二十三日に、保育所、診療所、ごみ焼却施設、センター建設予定地などを巡回した。また産業土木委員会では五月二十六日に、町道建設工事の状況や農業構造改善事業、畜産の採草地などをみてあるいた。

これは委員会活動の一つとして、例年実施されているものである。同委員会とも、付託されている請願の現場もあわせ調査した。

なお総務委員会も、町営住宅新設工事が始まったころ実施する予定となっている。

議員定数について アンケート

議員定数調査委員会では、かねて議員の定数を、現在のままとするか、減少するかについて協議を重ねてきたが、町内有識者の意見を聞くことになり五月二十一日にその会合を開いた。

当日は、団体の代表者など六氏が出席して意見を述べた。委員会では参考意見を高碕に集計を終わる予定で、その結果をみて委員会の結論を出すことになっている。

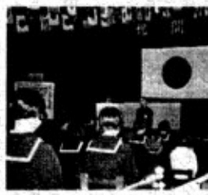
田麦山小学校 独立なった山ノ相川小学校にも校長先生

田麦山小学校山ノ相川分校が独立した。

開校は創立以来九十二年目。ながい間の部落の悲願と、町の過疎地対策が実をむすんで喜びの日をむかえた。

開校式には、県教育庁、町長、町議会、町教委、部落民等関係者多数が出席、白鳥教師作詞、白石教頭作曲の「開校をたたえる歌」の声も高らかに、うれしくも歓声で式が行なわれた。

金沢富二十五人は、初代青藤校長に、「開校までの皆さんのご努力に、これからの勉強や生活の中でこたえましょう。」とはげまされ、東京山相川出身の国鉄職場で、「ふるさとの投稿を お願い」


喜びでいっぱい……がんばりますと

町の広報紙として出発以来一〇〇号目をむかえました。昭和三十年頃創刊、十年目を経過しています。平均四年毎に一回の割合では、あまりほめた道みたではないけれども、ともかく一〇〇号とは一般論であります。

町の広報紙は、公民館の目的が社会教育のもとであると同時に、町民の生活文化の向上と社会福祉の増進のためにその機能をもつことも大切であろう。

公民館の目的は社会教育のもとであるから、その実践機関であると同時に、町の広報紙が「町だより」の内容をもつことも大切であろう。

広汎に及ぶ分野であります

「町だより」として発足したこの広報が、途中「公民館活動」となり、当時「公民館活動」といっても理解できなかったものも、これによって認識と理解を深めるとともに、「公民館」という言葉が定着してきました。

「町だより」として発足した一〇〇号目の日をむかえました。昭和三十年頃創刊、十年目を経過しています。平均四年毎に一回の割合では、あまりほめた道みたではないけれども、ともかく一〇〇号とは一般論であります。

過去の反省と、これからの新たな構想心構えと、益々充実した、みなさんに親しまれる編集をしなければと新たな覚悟が湧いてきます。

館報一〇〇号をむかえて 更に充実へ

発展するものであるから、その広報紙が「町だより」的内容をもつことも大切であろう。

広汎に及ぶ分野であります

公民館の目的が社会教育のもとであるから、その実践機関であると同時に、町の生活文化の向上と社会福祉の増進のためにその機能をたいと思います。

もんだい点は色々ありますが気の付くところでは、

①記事がニュース的でなく、既に完結された、ものが多い。

②町の行政的な記事が多く社会教育的なものが少ない。

③町民の紙上を通じての語り合いがない。

④町民の教養向上に関するものを取材する必要がある。

⑤社教関係団体の活動のようす。

反省することはまだまだあると思いますが、記事を求めることに過ればいろいろな現状からみなさんの投稿を お願いし、今後の充実を期したいと思います。

（館報発行責任者）

喜びの起工式
——新潟県畜産試験場——

近代的な養豚技術の先端を行くものとして県内で注目され、町をあげての組織であった県畜産試験場の起工式が、具ノ沢現場でおごそかに行なわれた。

式場には、黒側をはじめ、町長、町議会議員など多数参列し、川田県農林部長はか関係者による早期完工のねがいをこめた力強いクワ入れがあり、参列者一同その喜びを心からかみしめた。

工事は今年度中に全部終わる予定で、新年度を迎えると同時に畜産試験場としてスタートすることになっている。

館報くさくない公民館報を

星野高榮

第一〇〇号を迎えたとは、館報くさくない公民館川口町公民館報おめでとう。

この記念号に、創刊当時の編集にたずさわった者のひとりとして、「何か一つ書く」というチャンスを与えていただいたことはまことに光栄の至りです。

館報が「村だより」という題で誕生した当時、こんにちと同じタブロイド判の新聞タイトルに、未だ頒型のない「公民館報」というものを、どうのせていけばいいのか、しろうとばかりの編集委員には見当もつかず、原稿を持合を重ねるのみで、仕事がはかどらなかったことを思い出します。まさか、それが百号も続いてきたとは思ってもみないことでした。

こんな二ページ建ての不定期刊行物が、よくもここまで続いて来たものです。

この間、いろいろな人が編集の任に当たったことでしょうが、年とともによくなり、こ、たまにはローカル新聞の立派になったようです。公民館報としてどこに出しても恥ずかしくない、……どころかいやばりの出来るものになって来たといつも喜んで見ています。

昭和四十四年度の一般会計並びに特別会計の当初予算は、去る三月二十日原案通り可決しました。一般会計二億八千百八十三万円、特別会計一億一千七百三十六万八千円、総額三億九千九百十九万八千円で、昨年にくらべると一億三百六万円（三十四、八%）の増加になります。

特に一般会計は九千八百八十二万二千円（五十四%）の増加となっています。一般会計について、みますと、才入は地方交付税一億一千五百九十九万円のほか国県支出金、町債（長期借入金）等の依存財源を限度いっぱいにみこまれています。町税の伸長率が鈍化しているため、自主財源の予算に占める割合は十七、六%となっています。才出は目的別にみると、農林水産業費が全体の二八、八%で最も多く、性質別にみると建設事業が全体の四十三、九%で最も多くなっています。主な事業をひろってみますと次のとおりです。

◎総合福祉センター建設事業 二億四千七百三十四万円。ことしと来年の二ヶ年継続で、ことしは二千三百二十五万二千円。
◎町営住宅建設事業 二十戸建設二千七百二十八万八千円。
◎生活改善センター建設事業 一千八十七万二千円。
◎仙之沢林道開設事業 一千四百六十二万七千円。
◎農業構造改善事業 二千百二十一百八千円。
◎町道新設改良事業 一千五百三十七万九千円。
◎農道整備事業 一千百九十八万五千円。
◎県立農業試験場誘致費 四百六十五万円。
◎国土調査事業 五百八十四万八千円。

なお、一般会計並びに特別会計の状況を表とグラフで示しましたから参照して下さい。

昭和44年度 川口町予算総括表

会計別		本年度予算額 金額(A)	構成比	前年度予算額 金額(B)	構成比	比較 (A)−(B)	(A)/(B)	備考
		千円	%	千円	%	千円	%	
一般会計		281,830	70.6	183.008	61.8	98.822	154.0	
特別会計	国民健康保険事業会計	79,001	19.8	77.295	26.1	1.706	102.2	支出予算で計上
	農業共済事業会計	10.502	2.6	9.453	3.2	1.049	111.1	
	ガス事業会計	19 951	5.0	19.672	6.6	279	101.4	
	簡易水道事業会計	7.914	2.0	6.710	2.3	1.204	117.9	
	計	117.368	29.4	113.130	38.2	4.238	103.7	
合計		359.198	100.0	296.138	100.0	103.060	134.8	

一般会計性質別の才出構成

一般会計2億8.183万円の構成

国土調査事業はじまる

町ではことしから国土調査を実施します。

国土調査とは、現在の更正図が明治時代につくられたので、現地とくいちがいているところがおおいため、正確な測量によって国道をつくりなおす仕事のことをいいます。

大字峰、木沢、中山、荒谷、相川、武道原、川口、牛ケ島の各地域を第一次として調査を進めていきます。

関係地域での説明会も終わって、ことしの仕事である飛び地による写真撮影の準備をすすめています。

ことしの対象地域から必要に応じ、人夫の派遣をしてもらわなければなりませんが、ぜひご協力くださるようお願いします。

また測量するために、杭やシノ竹などをほうぼうに打ちこみます。これを無断で取り除いたり動かさせますと測量ができなくなりますから、さわらないようにして下さい。

どうしても移動しなければならないときは、役場内の企画課に申し出てから移動するようにしてください。

国民年金加入を 忘れていませんか

国民年金は、農業や自営業の人々に官庁や会社工場に勤めている人々と同じように公的な年金制度による所得保障を行ない、年をとったり、障害を受けたり、死にしたときの生活の安定を、国と被保険者（加入者）が共同で守ろうという趣旨で昭和三十六年から実施された年金制度です。

国民年金に加入しなければならない人は、一応の公的年金や各種共済組合などの年金制度に加入している人や、「現に公的年金を受けている人及び、この人達の配偶者、大学生」を除いた二十才から六十才までの方は、すべて加入することが法律によって義務づけられています。加入対象者は、印かんを持って役場の窓口においでください。

この中で手続きがおくれると、老年金を受けられなくなるおそれがありますから注意してください。

この度町当局のご協力により、十二月末工をめざして駅舎の改築工事が進められています。このため仮駅舎で営業することになり、ご利用の皆様に何かとご不便をおかけしますが、足もと等に注意され、発車時刻におくれないようご協力ください。

なお、バイク・自転車は町当局ご契約のうえ、正規の場所に置くようお願いします。

駅舎改築についてお願い

2.暗くなっても電気をつけないで自転車に乗っている人がおおい。

まず歩道橋をわたらないで、高校生からうえの人たちは、高校生からうえの人たちが、自転車に乗っている人が、ということです。

車道を横断するのは、あぶないことです。

2.歩道橋をわたらない人がおおいこと。

1.歩道橋あなたの ●●● ためにかけた橋

交通事故をなくしよう

交通事故による死傷者の数はふえる一方です。

主な原因は、「酒酔運転」で、子供たちの手本とならない「無理な追越し」「路上へのとび出し」などで基本的なものが守られていません。

交通指導員を中心に、安全協会のメンバーたちが、昼と夜、一日二回の街頭指導を定期的にやっています。街頭指導で特に目のつくのは、

1.歩道橋をわたらない人がおおいこと。

2.暗くなっても電気をつけないで自転車に乗っている人がおおい。

まず歩道橋をわたらない人が、高校生からうえの人たちが、自転車に乗っている人が、ということです。

車道を横断するのは、あぶないことです。

2.暗くなっても電気をつけないで自転車に乗っている人がおおい。